

2点 P, R における円  $C_1$  の接線の交点を I とすると, 2つの直角三角形  $PO_1I$  と  $RO_1I$  は合同となることから, 線分  $O_1I$  は  $\angle PO_1I$  を二等分する。同様にして結局, 三角形  $O_1O_2O_3$  の内心となっている。そして,  $IP = IR = IQ$  も成り立つから, I は三角形  $PQR$  の外心でもある。

$$\text{よって, } \angle PIQ = 2 \times 60^\circ = 120^\circ \therefore \angle PO_2Q = 60^\circ$$

したがって, 三角形  $PQO_2$  は一辺の長さが  $r_2$  の正三角形になる。

三角形  $PQR$  に正弦定理を用いて

$$\frac{PQ}{\sin \angle PRQ} = 2r$$

$$r_2 = \sqrt{3}r \quad \dots\dots\dots \text{①}$$

三角形  $O_1O_2O_3$  にも正弦定理を用いて

$$\frac{O_1O_3}{\sin \angle O_1O_2O_3} = 2R$$

$$r_1 + r_3 = \sqrt{3}R \quad \dots\dots\dots \text{②}$$

次に, 三角形  $O_1O_2O_3$  の面積を考えて

$$\frac{1}{2} \cdot O_1O_2 \cdot O_2O_3 \cdot \sin 60^\circ = \frac{1}{2}r(O_1O_2 + O_2O_3 + O_3O_1)$$

$$\frac{\sqrt{3}}{4}(r_1 + r_2)(r_2 + r_3) = r(r_1 + r_2 + r_3)$$

展開して①, ②を代入して

$$3r^2 + \sqrt{3}r \cdot \sqrt{3}R + r_1r_3 = 4r(r + R)$$

$$r_1r_3 = r(R + r) \quad \dots\dots\dots \text{③}$$

②, ③を満たす異なる正の数  $r_1, r_3$  が存在する条件は

$$(r_1 + r_3)^2 - 4r_1r_3 > 0 \quad \dots\dots\dots \text{④}$$

$$r_1 + r_3 > 0, r_1r_3 > 0 \quad \dots\dots\dots \text{⑤}$$

である。

④に②, ③を代入して整理すると,

$$(3R + 2r)(R - 2r) > 0$$

$$3R + 2r > 0 \text{ より } R > 2r$$

また,  $R > 0, r > 0$  であるから, ⑤は成り立っている。

以上から求める条件は  $R > 2r$